

北海道立文書館における非公開部分の措置方法

北海道立文書館 山田 正

中性紙の封筒を利用して作った「帯」を、該当箇所（文書1件単位）にかけています。

「帯」を使用するのは、1冊の文書の中に複数箇所の非公開箇所がある場合に綴じ部に加わる余分な力を少しでも減らせること、内容を確認しやすいことなどの理由からです。

「帯」には「非公開」である旨と、何年後に公開または再協議などと記入し、下端を着色しています。



下端に着色しておくことで、文書を閉じた状態で見るときに非公開箇所があるかどうか一目でわかります。



実際に閲覧に供する時には、中性紙の袋をかけて見られないようにします。
閲覧が終われば、袋をはずしておきます。

(この措置は平成15年度現在のものです、改良のため変更される場合があります。)